

## 広島・草戸千軒町遺跡

二〇等があるが、全体として閑散としている。

- 1 所在地 広島県福山市草戸町  
2 調査期間 第四〇次調査 一九八八年(昭63)四月～一九八九年三月

- 3 発掘機関 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
4 調査担当者 代表 松下正司

- 5 遺跡の種類 集落跡

- 6 遺跡の時代 平安時代～江戸時代(中心は主に鎌倉・室町の時代)

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

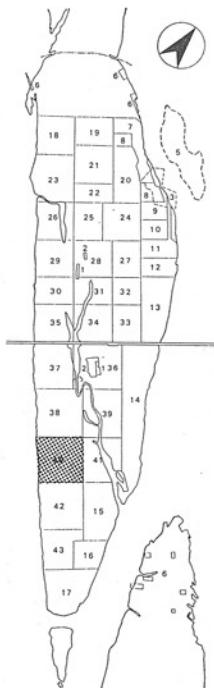
第四〇次調査区は、遺跡包蔵中州の南部に位置し、東西約五〇m、南北五〇mの約二五〇〇m<sup>2</sup>である。この調査区では、主に室町時代の集落の様相が明らかになった。

鎌倉時代の遺構には、柱穴や溝SD三八六三・L字状のSD四二

室町時代後半には、溝SD三八九一や、それを掘り直した溝SD三八九〇が環濠状に巡り、井戸SE四一二〇や土壙SK四一二五・四一五〇・四一五五・四一八五など環濠の内部に集落が営まれている。木簡は、井戸SE四一一〇から一点(1)、池SG四二一五から二点(2)・(3)出土した。

SE四一一〇は、木組の隅柱横板型の井戸で、東西八m、南北六mの掘形の中に造られており、残存部分は四mと深く、内部から独楽・曲物等の木製品のほか、多量の土師質土器が出土した。SG四二一五は、東西五m、南北八m、深さ〇・六mで、南側に護岸用のしがらみが設けられており、内部に堆積した粘土層から、漆器・下駄・草履状木製品等の各種の木製品が出土した。なお、両者とも室町時代前半のものである。

- 8 木簡の釈文・内容



第40次調査区位置図

1988年出土の木簡

|     |                          |                 |
|-----|--------------------------|-----------------|
| (1) | ・「▽□□□□□」                |                 |
| (2) | ・「▽□□□□□の□たね」            | 140×(42)×5 111  |
| (3) | 「□ま   □   ク   ま   □   を」 | (94)×(21)×6 197 |
|     | □□□                      | 149×27×4 174    |

(1)は上端部に切込みを入れたものである。片面については墨の残りが悪く、判読は難しい。もう一面の二字目については様々な読みが考えられるが、「ら」とすれば、中世には石成荘に含まれる江良（現福山市駅家町江良—草戸千軒町遺跡の北方約10畳）が想定され、この地からの物品の付札と考えられる。物品名について四字目が問題となるが、字の部分的欠失を考えると「な」の可能性もあり、「なたね」とも考えられる。

(2)は下端部を細く削り出した形状のものである。一字置きに横線が引かれており、呪符の可能性があり、形状自体も意味を持つものではあるまい。ただ内容については現段階では明らかにできない。

(3)は断片で、二・三字目は「廿七」「みて」など様々な読みが考えられるが、断定できない。

下津間康夫・田邊英男「草戸千軒町遺跡第40次調査概要」（『草戸

